

佐藤次郎 伝説のテニス選手。愛称"ブルドッグ佐藤"。四大大会で5度の四強を達成するも、現役中に自殺。

さとうじろう

アヲヲ 創刊・1908 = 群馬県北群馬郡長尾村(渋川市)で、豪農に生まれる。

明治天皇没・1912 = 4歳 :

ロシア革命・1917 = 9歳 :

原敬首相暗殺1921 = 13歳 :

旧制渋川中学校卒業後、
円本時代始・1926 = 18歳 : 早稲田大学予科に進学。

海軍軍縮条約1930 = 22歳 : *全日本テニス選手権でシングルス優勝し、日本ランキング1位となる。

満州事変・・1931 = 23歳 : *デビスカップの日本代表となる。同年の全仏選手権で、当時の男子テニス界ダブルスの第一人者ジョン=パン=リン(アメリカ)を準々決勝で破り、初の4大大会準決勝に進出し、世界ランキング9位に入る。

五一五事件・1932 = 24歳 : *ウィンブルドン選手権大会の準々決勝で前年優勝者のシドニー=ウッド(アメリカ)を破るが、続く準決勝でイギリスのバーニー=オーステンに敗れる。年末の全豪選手権でも、シングルスでハリ=ホップマンとの準決勝まで進み、混合ダブルスではメルル=オハラウッドとのペアで準優勝。全米選手権は4回戦で終わる。

国際連盟脱退1933 = 25歳 : 早稲田大学政治経済学部経済学科を中退。*全仏選手権とウィンブルドン選手権の2大会連続でベスト4に進出し、とりわけ全仏選手権の準々決勝では、イギリスの英雄フレッド・ペリーを破り、世界的な評価はさらに高まる。ウィンブルドンのダブルスでは布井良助とペアを組んで決勝まで進む。デビスカップの対オーストラリア戦で、当時の世界ランキング1位のジャック=クロフォードを破るも、シングルス第2試合で当時17歳のピビアン=マグラスに敗れ、日本チームが2勝3敗で敗退したことに深い精神的ショックを受けた。この年も全米選手権は4回戦で終わっている。イギリスの{デイリー・テレグラフ}紙の評論家ウォリス・マイヤーズ選定による当時の世界ランキングで第3位にランクされ、佐藤らの活躍を受けて日本でも{テニスファン}という月刊雑誌が創刊されるが、健康状態に異変が見え始める。彼は海外遠征に出始めた頃から、慢性的な胃腸炎に悩まされてきた。しかし彼は日本のエースとしての責任感が強く、無理を押し付けて試合出場を続行した。日本庭球協会で主導権争いをしていた早稲田派幹部からのプレッシャーも大きく、"デビスカップ選手派遣基金"を募集するには必要不可欠な存在となり、デ杯出場を辞退することができない背景もあって、{テニスファン}記者の岡田早苗との婚約を発表後、*デビスカップの日本チーム主将として{箱根丸}でヨーロッパ遠征に出発するが、その帰途、マラッカ海峡で投身自殺。世界の一流選手と互角に戦い、いかつい容姿から"ブルドッグ佐藤"と呼ばれた佐藤の突然の死は、世界のテニスファンにも大きな衝撃を与えた。

帝人疑獄事件1934 = 26歳 :